

(2) 社会科

平成26年度の県学力調査結果から見える社会科の課題として、大きくは2つの課題が指摘されています。1つは、基礎的・基本的事項の定着が不十分であること、2点目は、資料をもとに社会的事象の意味や特色、関連性等について考え、表現することです。観点としては、「知識・理解」「思考・判断・表現」と言えます。

基礎的・基本的事項の確実な定着なくして、「思考・判断・表現」の能力を伸ばすことは難しいと考えます。まずは、日々の授業等における基礎的・基本的事項の確実な定着を図っていきましょう。

基礎的・基本的事項の確実な定着

右下は、本年度の県学力調査の中学1年社会の問題（「知識・理解」）です。「日本国憲法の三原則」を書かせる、小学校6年で学習している内容で、基礎的・基本的な知識

ということができません。しかしながら、本問題の県の定着率は26.1%、本管内においては21.6%と、10人中2人の生徒しか正解に至っていないという結果

① かおり 香さんは、小学校で学習した日本国憲法けんぽうについて振り返っています。次の各問いに答えなさい。

(1) 香さんは、日本国憲法の3つの原則について、次の表にまとめました。空欄ア・イに当てはまる語句を書きなさい。

【日本国憲法の3つの原則】

① 政治の主人公は国民	国民主権
② 二度と戦争をしない	(ア)
③ 生まれながらの権利を大切にする	(イ)

果でした。こうした基礎的・基本的事項の定着が不十分であるという傾向は、他の学年にも見られる傾向です。

各単元毎の基礎的・基本的事項を洗い出し、授業において指導を徹底するとともに、今年度の本所の「『確かな学力』の定着への取組」にも位置づけています「補足的な学習の計画的な実施」(繰り返し指導・間違い直し、「達成感を味わうことのできる」確認テストの工夫)も有効な手だてであると考えます。また、本問題例からも言えますが、小学校においては前学年までの既習事項の復習、中学校においては、小・中連携を考慮したきめ細かな取組も必要です。

各学校の実態に即した基礎的・基本的事項な確実な定着のための取組の工夫をお願いします。

社会科の授業改善

社会科は、課題解決的な学習を組織していくことが大切であり、その過程において、指導方法の工夫改善が求められます。次頁からは、小・中学校の教育課程研究協議会の資料です。本資料を参考に、社会科の授業改善を進めていただければと思います。

平成26年度小学校教育課程地区別研究協議会(社会)概要

【県学力調査結果から見える課題】

資料から情報を読み取る技能や基礎的・基本的事項については、概ね定着していると考えられるが、調べたり考えたりしたことを目的に応じて適切に表現することに課題があります。特に、それぞれの社会的現象の特色やよさなどを表現することに課題があります。

【授業の課題】

- 1 単元名のみを板書し、本時の学習問題を設定していない授業が見られます。
- 2 問いが不明確で、内容が拡散する話し合いが見られます。
- 3 「資料の情報を読みとる」、「討論のしかた」等の指導が不十分で、時間内に学習活動が終わらない場合があります。

社会科の授業改善の視点

①児童の問いを生かしましょう

◎学習問題を児童がつくることは、「見通し」「振り返り」をするために重要

<学習問題のつくり方の例>

- Aと比べてBに問いをもつ
- AからBへの変化や継続性に問いをもつ
- 児童から出された問いから「～なのに、なぜ」という学習問題をつくる
- 個人の問いをクラス全体の問いにしていくこと

「ゴミの減量にはどのような工夫や努力があるのだろうか」

人口が増えているのに、なぜゴミの量が減っている？

◎意欲的に調べる活動、考える活動を進めていくためには、児童が予想する、あるいは見通しをもつことが重要

『○○はどのようなにして、正確に地図をつくることができたのだろうか。』

(予想)「現在の地図にそっくりだ。優れた技術や工夫があったのではないか。」

②情報を丁寧に読みとらせましょう

◎資料から情報を読みとる技能を高めることが重要

ア 地図から情報をよむ・かく

- 方位
- 土地の高低
- 地図記号等

イ 文書・絵・写真等から情報をよむ

- 人の様子
- 建物の様子
- 他の時代との比較の視点等

ウ グラフや表から情報をよむ・かく

- 表題
- 縦軸、横軸
- データの変化
- 2つのグラフの共通点、相違点等

◎情報を取り出すだけに終わらず、特徴、違い、共通点などの観点を児童に示すことが重要

③学習問題をふり返らせましょう

◎自分の成長を実感させるためにも、振り返りの際に自分の予想を振り返らせることが重要

「○○はどのようなにつくられているのか」

「○○はこのように…」

「なぜ○○が必要なのか」

「○○が必要なのじゃ…」

児童の問い

学習問題をつかむ

予想

学習計画

振り返り

「つまり、～はこのような動きがある。」
「例えば～は、○○と同じような特色が見られる。」

社会科の授業改善のために

【本県の課題】

資料から情報を読み取り、結果を説明することは概ね定着している。しかし、結果を分類したり、相互に関連付けたりしながら、思考・判断したことを目的に応じて適切に表現することには課題がある。

地理的分野

【地理的分野ならではの「思考力、判断力、表現力」等とは何か】

地理的な見方

- ・どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか
- ・どのような空間的な規則性や傾向がみられるのか
- ・なぜそのように分布しているのか
- ・なぜそこですべてそのようにみられるのか
- （そどこでしかみられないのか、他の地域にもみられるのか）
- ・なぜそのように分布しているのか 等
- （それがみられるところは、どのようなより大きい地域に属しているのか、どのようなより小さい地域から構成されているのか）

※地理的な見方や考え方は、地理的分野の学習問題づくりにも生かすことができる。

公民的分野

【目的が明確な言語活動にしていこうためにはどうすればよいか】

「見通し・振り返り」学習活動を意識した言語活動の充実

- ①人間の尊重とはどういうことか？
- ②それはどのような方法で実現できるのか？
- ③なぜ法に基づいて政治が行われることが大切なのか？
- ④天皇の地位と天皇の国事に關する行為はどのようなものか？
- ⑤自治とは何か？
- ⑥議会制民主主義を取り入れていっているのはなぜか？



※単元全体の学習を考えると、「見通し、予想」と「振り返り」の時間を設定することが重要である。このことで、言語活動等により課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等が育まれる。



【課題解決に向けて】

思考力・判断力・表現力等は、課題を解決するために培われるものという視点に立って、問題解決的な学習を再度見直す必要がある。

歴史的分野

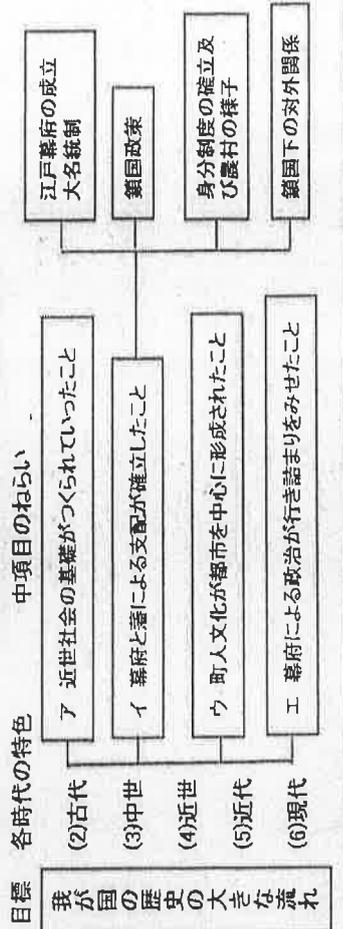
【学習内容の焦点化をどのように図っていくか】

学習内容を精選し焦点化を図る必要性

こうした構造化に伴って、各項目で理解すべき学習の焦点化を図った。(中略)その焦点に深く関わった構造化に併せて、十分な時間をかけ、学習方法を工夫して、より深く確かな理解が図られなければならない。反対に、それとのかかわりが低い事象は、必ずしも取り上げられるべきではないことになる。

(平成20年度中学校学習指導要領解説社会編歴史的分野の改訂の要点から) ※歴史的分野の多くの学習内容も、学習指導要領解説(社会編)をもとに構造化すれば、確かな理解を図るべき事項が見えてくる。

中学校歴史的分野 構造化の例



<全分野に共通すること>

- 学習問題については、汎用性、教材観、事象間の違いなどから設定すること。
- 「知識の構造図」等を用いて、全体像を明らかにすること。
- 単元における継続的な思考を促すために、単元を貫く課題を設定すること。
- 学習に必要な技能の習得についても計画的に行うこと。